

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2023 年 2 月 15 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」北長野校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		お子さん一人ひとりが自分の活動ができるよう、スペースをパーティションで区切って支援を行っている。定員は適切である。	お子さんの年齢や体格、活動内容に応じて、支援スペースの広さを変えたり、机やいすなどを使い分けたりしている。
	②	職員の配置数は適切である	○		5名の指導員がそれぞれのお子さんに個別支援を担当できるよう、職員勤務のスケジュールを立てている。法令に則った職員配置を行っている。	支援中のみならず、支援後の振り返りの時間にもお子さんの対応ができるよう、職員配置を考えている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		入口外にステップを置いたり、玄関の段差がないようマットを敷いたりして、移動しやすいようにしている。	事務スペースと支援スペースの区別が、お子さんにとって、もっとわかりやすくなるような工夫をしていく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		換気に加え、空気清浄機やサーキュレーター、扇風機をそれぞれ複数台設置することで、心地よい環境を作るよう努めている。	掲示物や壁のエアシート、ホワイトボードなどの痛みや汚れがないよう心がけ、気持ちよく使ってもらえるよう配慮する。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		定期的に話し合いを行っている。それぞれの職員が、気が付いたところで積極的に様々な業務に取り組んでいる。	今後も効率的に業務を進めることができるよう、全員で話し合いや確認を行っていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		本年も、11月から12月にかけてすべての保護者の方に事業所評価をお願いし、多くの方から回答をいただいた。	改善できるところから取り組んでいる。支援用遊具についてのご指摘をいただいたため、12月中に借用し、お子さんに使ってもらったようにした。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価を行い、評価の結果について、職員全員で話し合いを行った。その結果は、2月中旬に教室のホームページに公開予定である。	すぐに対応できる面と、長期的に取り組んでいかなければならない内容がある。取り組みの成果は、ブログや LINE 一斉送信等でお知らせしていく。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価は、現在は実施していない。今後の検討課題とする。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		発達支援研究所による定期研修や地域の機関での研修に加え、教室内での虐待防止研修も行った。	今後も全員が積極的に参加できるよう、研修の紹介や研修時間の確保を行っていく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		毎年、2月から3月にかけて、再度すべての利用児のアセスメントを行い、新年度に向けアセスメント情報を更新している。	本年度も同じ時期に利用者全員のアセスメントを実施して結果を確認し、児童発達支援計画に反映させていく。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		全教室で共通に活用しているアセスメントツールを使用している。	本年度も同じツールを利用し、前年度の結果と比較することで、お子さんの成長をつかむ手立ての一つとする。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインを基に、保護者の方からいただいたお子さんの困り感、得意な点や苦手な点などに関する情報も参考にしながら支援内容を設定している。	支援中のお子さんの様子や保護者の方からの情報を基に、今後項目の選択の適切性を検討し、支援内容を設定していく。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に即し、お子さんの今の状況や保護者の方の願いを受けながらの支援に努めている。	今後もお子さんや保護者の方のニーズをしっかりとつかんで支援計画に反映させ、計画に沿った支援を進めていく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎回の支援内容やその日のお子さんの様子、保護者の方のご要望などについて、全員で情報交換を行いながらプログラムを立案している。	指導員が支援記録を読みあったり、お子さんの様子を尋ねあったりする時間を確保する。全員で協力してそのお子さんに合った支援が提供できるよう、今後も心掛けていく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		そのお子さんの成長や困り感に応じた支援内容を組み立てることができるよう、全員での情報交換や新しい教材作りなどを行うことで、プログラムの固定化を防いできた。	その時々のお子さんに合った活動内容を提案できるよう、今後も教材開発に努めていく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		コロナ禍により、個別活動中心の支援計画を作成してきた。集団での活動も徐々に取り入れてきている。	今後の感染状況を見ながら、小集団でのイベントも組み込んだ支援計画に変えていく。

関係機関や保護者との連携	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝の職員打ち合わせ会の中で、予定の確認やお子さんの支援内容についての情報共有、役割分担の確認などを行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	その日のうちに共有すべき内容は、全員で情報共有や意見交換を行っている。支援終了後に十分な時間が取れない場合には、適宜報告や連絡を行い、情報共有をはかっている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		指導員は丁寧な支援記録を残しており、次の支援担当者がその記録を読んで支援計画を立案したり、話し合いを行ったりしている。	支援記録から見えてくるお子さんの成長の様子を職員打合せ会や支援会議で伝えあい、他の職員や相談員等の意見を受けることで、支援の検証や改善につなげていく。
	㉔	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者の方から6か月に1回以上、計画についてのご意見を伺い、見直しに努めている。	
	㉕	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者と指導員が分担、協力して会議に出席し、全職員の意見をまとめた内容を発表している。	
	㉖	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者交流会で外部講師としてお招きしてお話を伺ったり、保健センターから情報をいただいたりしてきた。	今後も様々な関係機関との連携を密に取り、得られた情報を支援に生かしていく。
	㉗	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	—	—	(医療的ケアなどの配慮が必要なお子さんへの支援は行っていない。必要に応じて関係機関と連携しながら取り組んでいく。)	
	㉘	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	—	—	(医療的ケアなどの配慮が必要なお子さんへの支援は行っていない。必要に応じて関係機関と連携しながら取り組んでいく。)	

	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		支援会議や園訪問、電話連絡等により、情報共有と相互理解を図っている。	これからも積極的に取り組み、情報共有等から得られたことを支援に生かしていく。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		支援会議などで、就学に向けてのお子さんの支援について、情報共有と相互理解に努めている。	今後も密に情報共有を行い、相互理解を図っていく。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関とはいつでも連絡がとれる体制をとっており、多くの助言や研修の機会をいただいている。	専門機関での研修に積極的に参加し、研修の成果を全員で共有していく。
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	支援会議や園訪問に何う程度で、障害のないお子さんと活動する機会は設けていない。	今後、必要に応じて交流する機会を設けていく。
	㉘	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		長野市で行われている協議会やこども部会には、毎回参加している。地域の会議は、今年度は開催されていない。	会が開催される場合は積極的に参加し、他事業所との情報交換を行っていく。
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		支援中や振り返りの時間に、指導員や管理者が、お子さんの様子や困り感を伝えあい、相談することで、共通理解を図っている。	共通理解を深めることができるよう、保護者の方とお子さんの状況や課題について話し合う時間を、さらに多く持つことができるよう努めていく。
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		ペアレント・トレーニングは実施しておらず、他の専門機関を紹介するにとどめた。	保護者の方に役立てていただけるようなプログラムを積極的に紹介していく。
保護者への説明責任等	㉛	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時や初めての請求時に、できるだけわかりやすくお伝えするよう心掛けている。	より分かりやすく丁寧な説明ができるよう考えていく。
	㉜	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインに基づいて作成した支援計画を保護者の方に見ていただきながら説明を行い、同意をいただいている。	それぞれの支援内容が具体的にどういったねらいに基づくものかを、丁寧にお伝えするよう心がけていく。
	㉝	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		困りごとを気軽に話していただけるよう、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。	保護者の方のお悩み等に対し、適切な助言や支援を行うことができるよう、職員間の意見交換も行っている。
	㉞	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度は保護者交流会や講演会を計４回実施した。会場での連携が深めら	どの会も平日の午前中に実施したため、予定が合わずに参加できないという方がおられる。より多

非常時等の対応				れるよう、内容や運営方法を検討した。	くの方が参加できる実施日と時間を探り、連携をさらに強化していく。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	相談や申し入れがあった場合には、すぐに全員で情報共有するとともに、担当者を決め、相談や対応のための日程調整を行ってきた。	保護者の方からの申し入れを受けるだけでなく、事業所からも相談の提案や情報提供を行っていく。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	会報は発行していない。印刷物やブログ、LINE 一斉送信で情報を発信している。	Instagramによる情報発信も開始した。今後も情報発信を強化していく。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○	個人情報に関する同意書や社内ルールに基づき、取り扱いには十分注意している。	適切な管理運営ができているか、今後も細心の注意を払っていく。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	プリントだけでなく、画像や様々な道具を使いながら、お子さんに伝わりやすい方法を探ってきた。	保護者の方とは、直接お話することに加え、LINE で頻繁にやり取りをしてきた。今後も丁寧な対応を心がけていく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	コロナ禍のため、地域の方を招待する機会は設けてこなかった。地域の方を講師に迎えての保護者交流会は実施した。	今後も地域との交流を図っていく。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	左記のマニュアルはすべて策定されており、職員全員で確認している。ポスターなどで室内の見やすい場所にも掲示している。	防犯マニュアルもわかりやすい形で掲示していく。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	職員は毎月、災害に備えての訓練を実施している。保護者の方を交えての防災訓練も実施した。	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	契約時に、利用するお子さん全員について確認するとともに、支援会議でも新しい情報を入手している。	モニタリングの時には確認を行うことで、常に最新の情報を得ることができるよう努める。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—	—	(食事やおやつの提供を行っていないため、特段の対応は行っていない。アレルギーについての報告は、支援会議などで受けている。)

	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例集を作成し、過去の記録を保管している。事例が発生した場合は、全員で迅速に情報共有している。	北長野校の教室内で起こりやすい事例についても確認することで、ヒヤリハットや事故を未然に防ぐよう努めていく。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部での研修受講に加え、教室内でも全員参加の研修を行っている。	今後も研修に積極的に参加して様々な事例を学ぶことで、虐待を見抜く目を養っていく。通報しやすい環境も整えていく。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		社内マニュアルに基づき対応している。児童発達支援計画にも記載している。	今後も身体拘束が許される場面や条件等についての研修を受け、全員が適切な判断を下すことができるようにする。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2023 年 2 月 15 日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」北長野校

保護者等数（児童数）：10 回収数：8 割合：80%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	1	0	0	1 時間の利用人数が少ないことで、子どもも気が散りにくく、集中して取り組んでいる。	今後もお子さんが集中して取り組むことができるよう、活動内容に合わせた利用人数の調整や活動スペースの工夫などを行っていきます。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	7	1	0	0		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	0	0	0	パーティションで区切られていてよい。	パーティションで区切ることにより、目から入ってくる情報を制限し、集中しやすい環境を作ってきました。これからもわかりやすく構造化された環境作りに努めていきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8	0	0	0		
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	8	0	0	0		
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8	0	0	0		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8	0	0	0		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	6	2	0	0		それぞれのお子さんの困り感や興味関心に沿った、多様な活動内容を設定することで、固定化を防ぐ努力を今後も続けていきます。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	1	2	3		交流や障害のないお子さんと活動する機会は設け

								ていません。今後、要望を いただいた場合には検討 していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明が なされたか	8	0	0	0		
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基 づき作成された「児童発達支援計画」を示しなが ら、支援内容の説明がなされたか	7	0	0	1		
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・ト レーニング等）が行われているか	3	1	1	3	北長野校でもペア レント・トレーニング 等を体験できるイベ ントなどがあると嬉し いです。	ペアレント・トレーニングは 北長野校では実施しなか ったため、他機関での研 修会を紹介するにとどめま した。今後の検討課題と します。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子ども の発達の状況や課題について共通理解ができているか	7	1	0	0	LINE や利用日等 で共有させてもらっ ている。	振り返りの時間や LINE などを使った情報共有を 行ってきました。今後も保 護者の方のご要望も踏ま えた情報提供を行い、共 通理解を図っていきます。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する 助言等の支援が行われているか	7	1	0	0		
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援されている か	7	0	0	1		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対 応の体制が整備されているとともに、子どもや保護 者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速 かつ適切に対応されているか	8	0	0	0	いつも丁寧な対応に 感謝いたします。	いつでも声をかけやすい職 員であるよう、今後も心が けていきます。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のため の配慮がなされているか	8	0	0	0		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行 事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己 評価の結果を子どもや保護者に対して発信されて いるか	8	0	0	0	イベント時のお知ら せを用紙でもいただ いているため、とても ありがとうございます。	LINE では伝わりにくいこ ともあるため、用紙をお配 りしたり教室に掲示したり してきました。今後も発信の 機会を増やしていきます。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	8	0	0	0		
非 常 時 等	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対 応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明され ているか。また、発生を想定した訓練が実施されて いるか	8	0	0	0	利用開始前に詳し く説明していただい た。	今後もわかりやすい説明を 行うよう心掛けていきま す。

の 対 応	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	7	0	0	1		
満 足 度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	8	0	0	0	嫌がることなく、いつも作品を嬉しそうに見せてくれる。	これからも、お子さんの嬉しそうな表情がたくさん見られるような支援に努めていきます。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	8	0	0	0	祝日も対応してもらえるのがありがたい。	今後も、祝日に園のお子さんが利用しやすいよう、時間枠を設定していきます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。